

Hello & Touch

ユメミル、チカラ応援レポート

地域メディア活動報告書

2017



進化する“Hello&Touch”

HTB WAY～愛され続ける「ひろば」をつくるために

HTBの仕事は、北海道の魅力を発見し、ときには創造し、
たくさんの人と共有することで、北海道の未来に貢献することです。
私たちはその活動を「ひろばづくり」と呼んでいます。

私たちは、日々の業務の中で出会う一人一人と
心を通わせ、つながることを大切にしています。
それが「ひろば」を生み出し、成長させるチカラであり、
地域メディアとしてのHTBの存在意義でもあるからです。

HTBは“Hello&Touch”の場を、放送も含めたあらゆるメディアに拡げています。
もっと多くの人々と出会い、深く対話していくための進化のかたちです。
日々の新たな挑戦のもとで紡いできた、
2016年の「地域メディア活動」をここにご報告いたします。

Top Commitment

**北海道を深掘りし、世界に発信する
地域メディアの役割を果たし続けます**

北海道テレビ放送株式会社
代表取締役社長
樋泉 実

地域メディア活動報告書「ユメミル、チカラ応援レポート」は今年で7冊目になりました。私たちは「地域の課題に寄り添うことが地域メディアの責任である」、「番組づくりはゴールではなく、地域活動のスタートラインである」と考えています。地域社会の一員として「地域の価値を高める」、「女性活躍推進」、「働き方」などのテーマで社内で議論したり、視聴者、広告主、企業、自治体、地域など多くのステークホルダーと交流する機会も増えてきました。HTBの活動は社内外で充実し、すべてを載せきれないほどになってきました。

この四半世紀でメディア環境は激変しました。20年前の1997年3月に開始したアジア向け発信番組『北海道アワー』は、現在は『LOVE HOKKAIDO』と名前を変え、ハワイやメキシコでも放送されるようになり、視聴可能人口は約8億人となっています。海外からの観光客数で際立つ北海道は、「日本の北海道」から「アジアのHOKKAIDO」となりました。映像のチカラと、「継続は力なり」を実感します。テレビはメディア環境の変化とともにさらに進化しており、まだまだ発展の途中といえます。地域はコンテンツの宝の山です。表現力をさらに磨き、地域メディアの役割・責務を果たしてまいります。



地域メディア HTBの企業姿勢

「HTB信条」は、「夢見る力を応援することで地域の未来に貢献する」という地域との約束であり、私たちのミッションです。

めざすべき地域の姿を「HTBビジョン 未来の北海道」に記し、

その実現に向けて、アクションプラン「ユメミル、チカラ応援ステーション」を定めています。

地域に新しい価値をつくるために、6つのチカラをテーマに、さまざまな思いを応援しています。

企業理念(HTB信条)

HTBは夢見る力を応援する広場です

私たちは北海道の未来に貢献する「ユメミル、チカラ」です。
発見と感動を発信し みんなの心を応援します。

私たちは日々「今」を伝え続けます。
地域のための情報を発信し みんなで地域をつくります。

ビジョン(HTBビジョン 未来の北海道)

笑顔がつながり 響きあう

地球にやさしく 食と自然が活きる
先進の大地

新しい価値を創造し アジアに際立つ
HOKKAIDO

アクションプラン(ユメミル、チカラ応援ステーション)

北海道のチカラ

地域に根ざす放送局として北海道を応援し、北海道のすばらしさを道内のみならず、道外、海外へも発信していきます。

エコのチカラ

私たちを取り巻く環境を正面から見つめ、豊かな環境を守り育てる皆さんを応援します。

食のチカラ

賢い食や北海道産素材を通して健康を考え、食の仕事に取り組む皆さんを応援します。

子どものチカラ

子育てや教育を考え、無限の可能性で未来を拓く子どもたちを応援します。

生命のチカラ

生命の尊さをともに考え、病気と向き合い活動が続ける皆さんや地域医療の発展に取り組む皆さんを応援します。

スポーツのチカラ

スポーツを通じて北海道を元気にし、夢を追い、感動を運ぶアスリートを応援します。

HTBのCSR

私たちのCSRは、本業の強みを最大限に活かし、地域に対する責任を果たすことです。生活者や地域との共感、信頼関係を築き、一人一人が日々の仕事を通じて、地域の未来に貢献する「ひろば」をつくります。

私たちは第一に本業を通じて地域の課題に寄り添い、社会的責任を果たします。日々の暮らしに必要な生活インフラとして、地域の「今」を伝えます。新しい発見や感動という価値を生活者と共有し、地域の未来を共につくっていきます。

私たちは日々の仕事の強みを活かして、地域の人の心を育みます。特に未来を担う子どもや若者の夢と意志を積極的に応援します。対話を大切にするこの活動は、私たちも学び、成長を共にする場でもあります。

私たちは地域社会の一員、メディア人の責任として、法令、社会的規範、放送倫理を順守します。そのために私たち一人一人が守るルールやチェック体制をつくり、地域との共感、信頼関係を築いていきます。

本業を通じた
ひろばづくり

信頼関係を築く
ひろばづくり

HTBらしい
地域との
ひろばづくり

いつでも、どこにいても、Hello & Touch

HTB北海道onデマンド

日本中の北海道ファンの皆さんに、
映像だからこそ表現できる北海道の価値や魅力を届けたい。
その思いが、自社運営の動画配信サービス
「HTB北海道onデマンド」の立ち上げにつながりました。
2017年5月15日時点で、独自コンテンツを含め
コンテンツ数は約1,800本、会員数は6万人を超えました。
「HTB北海道onデマンド」は、時間や場所の制限なく集うことのできる
「ひろば」として、誕生以来、成長し続けています。

HTB北海道onデマンドとは？

2012年4月2日にスタートした、HTBの動画配信サービスです。全国に熱狂的なファンを持つ人気番組『水曜どうでしょう』や『おにぎりあたまますか』などのバラエティーをはじめ、ドラマ、ドキュメンタリー、スポーツなどあらゆるジャンルのコンテンツを無料または有料で配信しています。マルチデバイス対応で、パソコン、スマートフォン、タブレット端末などから視聴が可能です。

地上波放送以外での生活者との接点づくりは、北海道内外の皆様に北海道を一層身近に感じていただくことにつながると考え、地上波放送直後の番組見逃し配信などにも積極的に取り組んでいます。



HTB北海道onデマンドの特徴的な取り組み

膨大な情報を蓄積でき、時間の制約なく発信できるのがインターネットの特性です。HTB北海道onデマンドでは、地域メディアならではの情報である「地域情報コンテンツ」を積極的に配信。観光、グルメ、イベントなどさまざまな角度からとらえた北海道の魅力を順次発信し、北海道のエリア価値を可視化、アーカイブ化しています。

また、イベント開催時には会場の様子を配信するなど、リアルとWEBを融合し、双方向性のあるコミュニケーションを生む手段として活用しています。オリジナルコンテンツの制作も行っており、コアなテーマを扱うなど従来の放送の枠にとらわれない企画で、新たなファン層を開拓しています。また、若手スタッフのものづくりの挑戦の場としても機能しています。



HTB北海道onデマンド 主なコンテンツ紹介

- 地上波でも放送したコンテンツ
- HTB北海道onデマンドオリジナルコンテンツ



巻のonちゃん

バラエティー

HTBのマスコットキャラクター・onちゃんが、北海道中を気の向くまま、ぶらりぶらりと一人旅をする番組です。各地で出会った皆さんと笑顔で挨拶を交わし、最後にお気に入りの風景の中で記念撮影をします。HTB北海道onデマンドだけで見られる特典映像も配信しています。



むろはるはみた

LOVE HOKKAIDO

情報・報道

北海道の「愛あふれるヒト・モノ・コト」に注目し、外国人MCが体験した感動をそのまま伝える番組です。外国人MCから見える北海道を切り口に生活文化にも着目し、北海道に暮らす人々も気づいていない北海道の魅力を掘り起こして全国に発信しています。



人間ドラマ 鷹野、結婚するってよ His wife marry Gakky!

鷹野、結婚するってよ

オリジナル

入社4年目の若手スタッフによる、チャレンジ的な人間ドラマ企画です。2016年11月のHTB北海道onデマンドリニューアル後、最初に公開したオリジナルコンテンツで、毎回、若者の感性を活かしたもののづくりを行っています。公式Twitterも開設しています。

神秘的な自然現象「サンピラー」

オリジナル

雪と氷に閉ざされた厳冬の森。ダイヤモンドダストが雪原に差す朝日で輝き、幻想的な光の柱が現れます。「雪女伝説」のもとになったともいわれる神秘的な自然現象「サンピラー」をとらえた貴重な映像を、オリジナルコンテンツとして配信しています。



NO MATTER BOARD

スポーツ

2016-2017年シーズンで23シーズン目に突入した歴史ある番組です。スノーボード、サーフィン、スケートボードなどのスポーツと「ヨコノリカルチャー」を応援してきました。地上波では11月から4月の冬季間の放送ですが、HTB北海道onデマンドでは過去6年の番組をいつでも視聴できます。



夢チカ18.net

音楽

「音楽・夢」をテーマに北海道の音楽シーンを応援するセミドキュメント「夢チカ18」のHTB北海道onデマンド版です。『夢チカ18.net』では未公開インタビュー映像を一挙配信し、アーティストの想いを全国に届けています。アーティストの音楽性だけでなく、素顔にもスポットを当てる内容の濃さが特徴です。



水曜どうでしょう

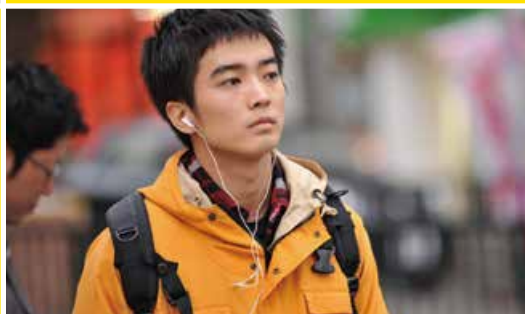
バラエティー

HTBを代表する人気番組です。HTB北海道onデマンドでは番組だけでなく、トークライブといった関連イベントの様態なども配信しています。場所や世代を超えて進化し続ける「水曜どうでしょう」の巨大なファン・コミュニティを支える「ひろば」として、コンテンツを発信し続けています。

今そこにある詐欺

情報・報道

タワの情報番組「イチオシ」のニュース企画です。全国で被害が出ている特殊詐欺について最新かつ独自の情報を提供しています。手口が巧妙化、多様化している状況を踏まえ、詐欺の手口や被害防止のポイント解説などより具体的な内容を扱い、注意喚起に努めています。



HTBスペシャルドラマ

ドラマ

「東京ではつくれない作品世界を」という思いを出発点に、HTBが1996年から制作を続けてきたドラマシリーズです。国内外から高く評価されている、北海道を舞台に紡いできた物語を厳選して配信しており、一部の作品ではメイキング映像を見ることができます。

HTBカメラマンスケッチ

オリジナル

HTBカメラマンが、北海道の短い夏を彩る祭りの賑わいの瞬間を切り取る、渾身の映像スケッチです。夜空を照らす灯りと炎、街を練り歩く勇壮な男たち。真夏の太陽の下で、夕闇が迫る社で、生き生きと動き出す鬼や天狗、神輿の映像が、見る者を北海道のひと夏の記憶の中へと誘います。



むろはるはみた

オリジナル

HTBアナウンサー・室岡里美と高橋春花の同期コンビが、トークや体当たり系企画に果敢に挑戦。放送ではなかなか見られない一面が見られると、人気を集めています。自社運営の動画配信サービスだからこそ実現できるオリジナルコンテンツです。



神内ファーム21プレゼンツ いずみ〜北海道くらしの詩(うた)

情報・報道

北海道新聞朝刊で60年以上続いている女性読者からの投稿コーナー「いずみ」。600字でつづられた家族への感謝、友人との思い出、故郷への思いなどの感動的なエッセイを、標茶町出身の女優・高橋恵子の朗読に乗せて北海道から全国に発信しています。

HTB北海道onデマンド 主なコンテンツ紹介

- 地上波でも放送したコンテンツ
- HTB北海道onデマンドオリジナルコンテンツ



お疲れ様です。ADです。

オリジナル

テレビの仕事や業界に関する情報を、テレビ局で働くスタッフ自ら発信するオリジナルコンテンツです。どんな仕事をしているのか、どのように働いているのかなど、テレビの世界で働きたいと思う人が抱く疑問に、時には真面目に、時にはユーモラスに答えます。

お疲れ様です。

ADです。

おにぎりあたためますか

バラエティー

大泉洋、戸次重幸らが日本全国を巡りおいしいものを食べまくる、旅と食欲とレクリエーションの新感覚フード・エンターテインメントです。HTBを代表する番組の一つで、ファンの輪は全国に広がっています。放送外地域の方にも、配信でお楽しみいただいています。



世界に一つだけの味
セレクション

バラエティー

方々の情報番組『イチオシ!』で好評を得ているコーナー企画です。北海道各地で地元の人に聞いた「とっておきの味」を紹介しています。その土地ならではの郷土料理から最近話題のニューフェイスまで、道民に愛される「味」を厳選してお届けします。



藤やんとうれしー

オリジナル

「水曜どうでしょう」の藤村忠寿・嬉野雅道両ディレクターが開設した、会員制コミュニティです。両ディレクターとさまざまな人々との出会いをきっかけに生まれた番組、舞台、アニメ、トークショーなど、多様なコンテンツを配信しています。ファン同士の交流の「ひろば」にもなっています。

世界に一つだけの味
セレクション

onちゃんとバナナくん

バラエティー

HTBアナウンサーが行っている読み聞かせ活動「onちゃんおはなし隊」で人気のオリジナル紙芝居をアニメ化したコンテンツです。HTBのマスコットキャラクター・onちゃんを主人公にアナウンサーがつくった、ぬくもりあふれる物語を、全国のonちゃんファンにお届けしています。



イカナイバネ

バラエティー

HTBアナウンサーや社員が、北海道の朝に新たなムーブメントを起こすべく「魅せる出社」を提案するバラエティー番組です。憂鬱な出勤を「非日常」に変えるべく、毎回主役となった人物が驚きの行動に出ます。北海道を元気にしたいという気持ちから生まれた企画です。



平岸我楽多団 (ひらぎしがらくただん)

バラエティー

北海道内外の新たな才能・人材を発掘し、全国へ発信する深夜の実験バラエティー番組です。「我、楽しみ多く」生きようと明日を信じ夢見る、番組独自の出演者集団がさまざまな企画に挑みます。HTB北海道onデマンドでは、未公開シーンを含む番外編も配信しています。

HTB深夜開拓魂第16弾

イカナイバネ

国井が一生懸命

バラエティー

HTBアナウンサー・国井美佐がさまざまなことにチャレンジする、方々の情報番組『イチオシ!』のコーナー企画です。困難なことにも果敢に挑み、一生懸命に頑張る姿をお届け。イベント「HTBイチオシ!まつり」で披露した和太鼓パフォーマンスの舞台裏もお届けしています。



ヨビダシ!~カミの反省会~

オリジナル

方々の情報番組『イチオシ!』のリポーター・カミが、プロデューサーと共に1週間で起きた出来事や仕事について振り返り、反省する企画です。フラッグシップコンテンツである『イチオシ!』をより深く紹介する、放送と配信を連携させたオリジナルコンテンツです。



地域メディア活動報告

HTB WAY

2016-2017

「ひろば」をつくるだけでなく、大きく、そして長く育むためには、
多くの生活者と「Hello&Touch」することが大切だと、
地域メディア・HTBは考えています。

一人一人に情報をしっかりと届け、
密なコミュニケーションを図ることをめざし、
さまざまなメディアの特性を活かして
コンテンツを発信しています。
多様なメディアの連携で、
「ひろば」は広がり、つながり、新しい価値を生み出します。

これからも北海道の未来に貢献する
「ユメミル、チカラ」でありたい。
その信念を胸に、私たちが行ってきた
2016年度の地域メディア活動から、
主な事例を報告いたします。





地域メディア活動報告

HTB WAY▶CASE 1



【番組|コン|セ|プト|と|概|要|】

北海道内で唯一、全編を自社制作している朝の情報番組です。2011年3月の放送開始以来、多忙な時間帯に「見たい、知りたい」地域情報を、どこよりも生活者に寄り添って伝えてきました。

近年ではHTB最大のイベント「HTBイチオシ!まつり」の開催や、視聴者からの動画投稿募集などの取り組みで新しい「ひろば」をつくり、地域との結びつきを深めています。

親近感と体温を感じる交流の場づくり 公式Instagram開設

2016年6月5日、写真や動画を共有できる、若者に人気のSNS・Instagramに公式アカウントを開設しました。フォロワー数は2017年5月現在で1万6,000人を超えています。番組の情報やお知らせのフォローとしての活用のほか、『イチオシ!モーニング』をより一層身近に感じてもらいたいとの思いから、番組の舞台裏や出演者の素顔も日々、積極的に発信しています。

写真1 視聴者の皆様とのメッセージのやりとりも可能。Instagramをネット空間の「ひろば」の一つとして育てています

北海道の食にスポットを当てて9年目 毎週土曜日放送の「食のチカラ」

依田英将アナウンサーが道内各地の旬の食材を紹介する、土曜日の特集企画です。2016年も漁船に乗ったり畑で収穫をしたり、「マチのかあさん」と料理をしたりと五感を使った取材をしてきました。こうした触れ合いの中から得られた情報をもとに、北海道の食文化や生産者の思い、食の安心・安全を伝えています。

写真2 カキを求めて知内の漁師を訪ねた時のワンシーン。外海でのカキ漁にも同行



「onちゃんおはようたいそう」と「onちゃんダンス」の取り組みが発展

2015年から番組オリジナルの「onちゃんおはようたいそう」と「onちゃんダンス」の動画を視聴者から投稿いただき、放送しています。札幌や札幌近郊に出向き、体操の様子を生中継する「onちゃんたいそうキャラバン」なども行っており、北海道民の健康維持だけでなく、家族や友人、仲間との思い出づくりにも結びついています。

2016年はアイドルグループ・関ジャニ∞と札幌ドームで一緒に踊るコラボレーション企画も実施し、参加者、視聴者双方から好評を頂きました。

写真3 ダンスは小・中学校の授業に取り入れられており、子どもたちの学びの支援という視点からも力を入れています。体操は年齢問わず行える簡単なものです。気軽に体を動かすきっかけになればと考えています

地域の声

コンタクトユニットmicelle 振付師・ダンサー 櫻井ヒロさん

onちゃんダンスは初心者には難しい振り付けですが、ハードルの高さが逆に動画を投稿する子どもたちの連帯感を生んでいると思います。振り付けの目新しさ、地域のオリジナリティという点で今後の展開に注目しています。



共感のひろば「HTBイチオシ!まつり」と「HTBイチオシ!春まつり」の開催

「HTBイチオシ!まつり」はHTBの全番組・スタッフが参加して行うイベントです。3回目となった2016年は8月26日から28日の3日間、真駒内セキスイハイムスタジアムで開催しました。来場者や地域の生活者とフェイス・ツー・フェイスのコミュニケーションを図り、道内の市町村との絆をつくるのがイベントのねらいです。50市町村が屋外エリアに出店し、来場者は過去最高の5万8,000人を超えました。また、ソーシャルメディアやVODを利用し情報を発信。イベント中だけでなく開始前、終了後も含め多様なアプローチを行い、HTBと生活者との接点を数多くつくりました。

同じく3回目となる「HTBイチオシ!春まつり」は、2017年4月10日、開業24周年を迎えたサッポロファクトリーとのコラボレーションで開催しました。会場では「onちゃん、6ちゃん、HTB」というステーションメッセージの収録も行いました。映像は後日放送したほか、YouTube公式チャンネルでも公開しました。

写真4 「HTBイチオシ!まつり」では、番組出演者のカミさんが会場まで104kmを歩く企画の様子をTwitterやTwitCastingでリポート。リポートを見て応援に来てくださる方も写真5 「HTBイチオシ!まつり」天気リポーター体験コーナーではテレビを身近に感じてもらい工夫として、その場で体験者の名前のスーパーを作成し表示しました写真6 「HTBイチオシ!春まつり」のメイン会場となったアトリウム。「イチオシ!モーニング」と「イチオシ!」出演者が勢揃いしました

HTB WAY▶CASE 2



毎週月曜～金曜 午後3:55～7:00放送



番組コンセプトと概要

2003年4月にスタートした夕方の情報番組です。14年間、北海道民の生活実感や変化を見つめ、「地域メディアとしての放送」を志して歩んできました。

ニュースパートでは地道な取材を通し北海道の課題に光を当てる「地域ジャーナリズム」を貫いています。

番組内でのコーナー企画は、ソーシャルメディアを使い、放送以外の方法でも広く発信。地域と視聴者に寄り添う「ミカタ」でありたいと『イチオシ!』は考えています。

明日の暮らしのために知っておきたい情報を わかりやすく伝えるニュースコーナー 「国井のミカタ」

2016年10月、国井美佐アナウンサーがニュースキャスターとして『イチオシ!』に加わったのを機に「イチオシ!ニュース」コーナーをリニューアルしました。

新企画「国井のミカタ」は、国井キャスターが一生活者としての「見方」で、市民の「味方」としてその日の旬な話題を掘り下げ、伝えるコーナーです。視聴者から寄せられた情報や素朴な疑問について、国井キャスターが直接、現場に足を運び徹底的に取材。日々たくさんのニュースがあふれる中で、北海道民に本当に必要な情報とは何かを考え、拾い上げて届けています。

写真1 いつも視聴者に寄り添いたいという思いから生まれた企画。生活者にとって身近な話題にスポットを当てているのが特徴です。制度や仕組みが複雑な政治・経済の話題は、スタジオでわかりやすく解説します



地域と一緒にニュースづくり 投稿システム「イチオシ!動画ポスト」の運用

誰もが簡単に映像を撮影し、WEBやSNSで共有できる時代になりました。2016年4月から運用を開始した「イチオシ!動画ポスト」は、スマートフォンなどで撮影した映像の投稿を呼びかけ、災害や事件・事故から野生動物・自然現象まで、幅広いジャンルの映像をニュースとして報じてきました。地域の情報を視聴者と一緒に発信する。メディアと生活者の新しい距離と信頼の関係性をつくる取り組みです。

写真2 2016年4月に和寒町で撮影された道路を走るクマ。臨場感のある映像を地域に届けられるのが強みです

社会全体の課題として共に考える シリーズ企画「こども白書」

2016年3月にスタートした「こども白書」は、子どもや育児に関するさまざまな問題、悩みなどを取り上げるシリーズ企画です。子どもと子育てを取り巻く環境は厳しさを増しており、産みたくても産めないという現実、保育所不足の問題、子どもの貧困など課題は山積みです。今、この問題に向き合わなければ、私たちの未来はないという強い思いで、問題提起を継続しています。

写真3 放送時間帯のメインとなる視聴者層は子育て世代ではありませんが、子どもの未来は北海道全体の課題と考え、取り上げ続けています

多くの世代に届くものづくりのために 「18歳のわたし」で若い感覚に寄り添う

「18歳のわたし」は朝日新聞社との共同企画です。2016年3月からの1年間で、10人以上の18歳の若者に取材し、紹介してきました。選挙権、戦争、夢などさまざまな切り口から彼らのリアルに迫り、取材の様子や放送予告、取材後記をFacebookやTwitterで発信。SNSの利用により若い視聴者とのつながりを生み出すことができました。若者のテレビ離れや新聞離れを受け止めての挑戦的な取り組みは、若い視聴者の共感を呼ぶものづくりについて考える貴重な機会となりました。

写真4 台湾の大学に進学した若者への取材風景。「若者とは何か」、「若者が求めているニュースは何か」を模索した企画でした

超高齢社会における問題を追いつけて 長期シリーズ「老いるショック」

「老いるショック」は2015年9月に始まったシリーズ企画です。貧困・老々介護・介護や医療の制度変更など、高齢者を取り巻く課題について、多角的に取材を続けてきました。放送内容へのメッセージを多数お寄せいただくなど反響は大きく、ホームページに掲載しているシリーズ動画の中には視聴回数が4万回を超える回もあります。これからも当事者への取材を基に、老後の穏やかな暮らしのヒントになる情報を届けます。

写真5 放送したすべての回をホームページで閲覧できます

写真6 2016年の日本民間放送連盟賞「放送と公共性」部門では優秀賞を受賞



HTB WAY ▶ CASE 3



毎週木曜 午後8:54~9:00放送



番組コンセプトと概要

HTBのマスコットキャラクター・onちゃんが北海道各地を気の向くままぶらりと一人旅する1分間のミニ番組です。2016年6月23日に放送を開始し、2017年5月現在で巡った市町村は9市町村となりました。

旅先で出会った人と雑談したり、仕事のお手伝いをするなどして交流。何気ない触れ合いの様子から、地域の魅力を再発見し、まちの笑顔と元気を電波に乗せて届けています。



ARを使った仕掛けのあるポスター制作で 放送終了後も訪問した地域を応援

番組や活動をお知らせする番組ポスターにAR(拡張現実)を利用しています。無料アプリをダウンロードしたスマートフォンをポスターにかざすとonちゃんが動き出し、ナレーションを務める『水曜どうでしょう』の嬉野雅道ディレクターがしゃべり出します。放送以外の方法でも地域を楽しくアピールしています。

写真1 「HTBイチオン!まつり」でポスターを掲出したところ、多くのお客様がポスターの前で立ち止まり、大きな歓声を上げて楽しんでいました

つくり手と視聴者が触れ合う空間として TwitterやFacebookを活用

『巷のonちゃん』はSNSでの情報発信に力を入れています。制作スタッフの投稿に対する視聴者のリアクションに、さらに別の視聴者がリアクションするなど、あたかも同じ空間にいるかのようなコミュニケーションが生まれています。番組を通じて心が通う「ひろば」をこれからも増やし、育てていきます。

写真2 Facebook「HTB onちゃんひろば」や、Twitterの「onちゃん」アカウントなどで視聴者と交流しています

地域の声

北海道由仁町産業振興課 由仁のものの事業担当 若林貴彦 主査
北海道を応援したいという趣旨に共感し取材を受けました。完成した映像は短い中にもあたたかみが詰まった素晴らしいものでした。179市町村を応援するこの番組がますます認知されることを願います。





『LOVE HOKKAIDO』放送中の国と地域
※2017年4月現在

地域メディア活動報告

HTB WAY ▶ CASE 4



毎週土曜 午前6:05~6:30放送



| 番組コンセプトと概要 |

「北海道の愛あるヒト・モノ・コト」を外国人MCの目線で伝える海外向け情報番組です。これまでに11の国と地域で放送を行い、国内での放送回数も2017年3月18日で200回を突破しました。

前身番組『北海道アワー』から継続してきた自社制作番組による海外発信は2017年で20年目を迎えました。言語の壁を超えて人の心に届く映像の力を活かし、北海道の価値を強力に発信しています。

番組で見た「あの場所」へ確実にナビ 「LOVE HOKKAIDOアプリ」提供開始

2017年1月、日本語・英語・簡体字・繁体字4言語対応のスマートフォン向け無料観光アプリをリリースし、中国を中心に、5月現在、約1万2,000ダウンロードされています。番組で取材した内容を「街歩き情報」として配信するほか、目的地までのリアルタイムルート案内も行います。常に最新の観光情報を発信し、地域の活性化に貢献します。

写真3 番組情報に自治体提供の観光情報をミックスしたコースも作成し、地域のアピールとユーザーの満足度向上につなげます。第一弾として池田町のスポット情報&コース案内を掲載しました

海外ドラマ制作への協力で 次のムーブメントを仕掛ける

中国民間最大手の映像制作会社・海潤メディアグループと、北海道を舞台にしたドラマを共同制作しました。ドラマ『次の駅で待つ』は、人気俳優が出演する大規模連続ドラマで、2017年に中国国内で放送されます。ドラマを呼び水とした観光ブームの創出に地域メディアとして積極的に参加しました。

写真4 HTBは北海道内のロケコーディネートを担当。自社での情報発信だけでなく、海外の放送局や制作会社との共同制作や制作協力にも力を入れています

HTB WAY ▶ CASE 5

水曜どうでしょう

番組コンセプトと概要

出演者の鈴井貴之、大泉洋と、チーフディレクター藤村忠寿、ディレクター兼カメラマン嬉野雅道の4人が台本のない旅を国内外で繰り広げるバラエティー番組です。番組はこれまでに国内外延べ42局で放送されているほか、自社運営の「HTB北海道onデマンド」を含めた11事業者の動画配信サービスでも配信されています。2002年9月のレギュラー放送終了後もファン層を拡大し、現在も多くの笑顔を生み出している異色のローカル番組です。

東北・北陸・関東などを巡り、生配信も「水曜どうでしょうキャラバン」

2014年から、4トントラックで藤村・嬉野両ディレクター一行が東北を中心とした本州各地域を巡る「水曜どうでしょうキャラバン」を実施してきました。3回目の2016年は7月29日～8月14日の期間で開催。11県11会場での集客は2万5,000人超と過去最高を記録しました。

恒例企画の写真撮影や縁日のほか、運動会やクイズ大会などでファンと交流し、最終日の富山会場ではニコニコ生放送での配信も実施。日本全国のファンとのタッチポイントもつくりました。

写真1 ファンの皆様の通称は「藩士」。直接言葉を交わし、触れ合えるキャラバンは制作陣にとっても藩士にとっても特別な交流の場です

地域の声

涌谷町企画財政課企画班 金野暁主事

涌谷町の独自企画「カルトクイズ世界大会」は、全国の水曜どうでしょうファンに涌谷町を知ってもらえかけとなりました。イベントの実施は部署の壁を超えて職員が団結する機会ともなり、ありがたい波及効果が多々ありました。





北海道札幌視覚支援学校を訪問 耳で番組を楽しむ子どもたちと交流

2016年12月15日、藤村・嬉野両ディレクターが北海道札幌視覚支援学校を訪れました。番組を耳で「見た」子どもたちが『水曜どうでしょう』のファンとなり、学校でブームが起こったことが訪問のきっかけです。放課後を利用し、17名の子どもたちと先生たちが手作りで用意したワカサギ釣りゲームや水曜どうでしょうクイズで交流しました。

「水曜どうでしょうは耳で聴いて楽しめるすごい番組。これから視覚障がい者も楽しめる面白い企画をつくり続けてください」と、熱いエールを頂きました。

写真2 校内のどうでしょうブームの火付け役・高校3年生の米谷旭人さんが耳からの情報だけで描いた嬉野ディレクターの似顔絵

写真3 嬉野ディレクターの顔に実際に触れた米谷さんは「似顔絵とよく似ているけれど、もっとかわいかった」と笑顔を浮かべました

地域の声

北海道札幌視覚支援学校 山本正路教諭

両ディレクターと直接触れ合うことで、私たちは番組の作り手の思いや、人と人のつながりの素晴らしさを知りました。HTBの方々には障がいのある人の生活を身近に感じてもらうことができ、それぞれの世界を広げる良い機会になりました。



番組を機につなぐ、多くの人の居場所へ 「藤やんとうれしー」

2016年11月、動画配信サービス「HTB北海道onデマンド」内に会員制コミュニティ「藤やんとうれしー」を開設しました。藤村・嬉野両ディレクターの活動を動画とFacebookを通じて発信する場で、ファンとのコミュニケーションの「ひろば」になっています。

写真4 『水曜どうでしょう』のファンに限らず、「いろんな人の『あなたの居場所』『あなたの村』みたいなもの」となることが本コミュニティのめざすところ。2017年3月末の会員数は約1,000人。多様な人が集い触れ合うWEB上の「ひろば」です

HTB WAY ▶ CASE 6

夢チカ18

【YUMECHIKA 18】

The Documentary Program of The Musicians.

毎週月曜 深夜0:50~1:20放送

番組コンセプトと概要

2000年3月に放送開始。アーティストの人間性にも迫る内容の濃いインタビューが特徴の音楽セミドキュメント番組で、多くの音楽ファンや関係者から支持を得ています。

2004年7月には番組連動の定期公演「夢チカLIVE」もスタート。2017年3月末で放送は841回、公演は119回を数えました。音楽の素晴らしさと、「ユメミル、チカラ」を応援する思いをこれからも変わらず伝えていきます。

音楽を楽しむ愛するすべての人へ発信 動画コンテンツ「夢チカ18.net」

2016年11月より、自社運営の動画配信サービス「HTB北海道onデマンド」内で番組出演アーティストのフルインタビューを配信する「夢チカ18.net」をスタートしました。アーティストの想いを、より多くの音楽ファンに届ける試みです。「夢チカ」は北海道というエリアを超えて若者の夢を応援する、さらに大きな「ひろば」をめざしています。

写真1 期待の新星からメジャーシーンで活躍するアーティストまで、ジャンルを問わず取り上げます。写真は2016年10月24日放送回のワンシーン。ゲストは秦基博
写真2 「HTBイチャオシまつり」の常連アーティストであるDEPAPEPE



HTB WAY ▶ CASE 7



毎週水曜 深夜0:50~1:20放送

番組コンセプトと概要

地域のいつか輝くかもしれない才能や人材を発掘し、実験的要素の強い企画をお届けする深夜番組です。

北海道で活動する舞台役者や芸人、ミュージシャンなど出演者は幅広く、挑むジャンルもバラエティーからコント、ドラマ、ドキュメンタリーまで多種多様。地域とのつながりを大切にしており、2015年10月の放送開始当初からソーシャルメディアの利用や放送とイベントの連動に積極的に取り組んでいます。

外部とのコラボやソーシャルメディアの活用で コミュニティを生み出し広げる

フットワークの軽い等身大の番組づくりをモットーに、放送以外のメディアとの連動を意欲的に行っています。2017年4月には、札幌の人気劇団と協力して制作・放送したドラマ「インスタントドラマ〜桃子」を、舞台にアレンジして公演しました。今後、放送と同時に「HTB北海道onデマンド」で長期展開する「アイドル企画」も予定しています。地域と視聴者を巻き込む多様な仕掛けで「ひろば」を広げています。

写真3 挑戦が番組の持ち味。「インスタントドラマ〜桃子」は即興ドラマとして制作



HTB WAY ▶ CASE 8



毎週日曜 午後4:25～4:30放送
※毎月最終日曜は除く



番組コンセプトと概要

『医TV わたしたちの医療』は地域住民の健康を支える医療機関の理念や取り組み、具体的な診療方針などを発信し、医療情報の正しい理解と受診を促す地域貢献型医療情報番組です。地域や患者のニーズを掘り起こしながらの番組づくりで、地域の医療者と住民の信頼の絆を育むことをめざしています。2009年に放送を開始し、2017年4月末で放送379回を迎えました。



先進技術を積極的に利用した情報提供で「伝える」というメディアの使命を果たす

放送とインターネットを連携させる「ハイブリッドキャスト」を活用し、番組で紹介した医療機関の情報や過去の番組動画にアクセスできるサービスを24時間提供しています。視聴者がいつでも地域医療情報を入手できるこの取り組みは総務省「放送を巡る諸課題に関する検討会の第一次とりまとめ」で報告されたほか、2017年2月にベトナムで行われた放送事業者向けセミナーで先端事例として紹介されました。

写真4 番組は医療者へのインタビュー、施設映像、実際の治療映像などで構成
写真5 動画のスマートフォン閲覧、簡易視力チェックなども番組に連動させて提供



HTB WAY ▶ CASE 9

さっぽろ雪まつり

雪のHTB広場



2017年2月6日～12日開催

イベントコンセプトと概要

HTBは「さっぽろ雪まつり」で、唯一、1社で2会場を運営しています。大通3丁目会場では「白い恋人PARK AIR」の開催を、大通8丁目会場では大雪像制作を行ってきました。2017年は復元工事中の「奈良・興福寺中金堂」を大雪像として制作。プロジェクションマッピングも実施しました。会場の様子を国内外に発信する技術実験なども行い、北海道の冬を盛り上げるとともに、冬の美を国内外に伝えています。

8K映像の伝送実験に参加 まつりの賑わいを美しい映像で届ける

8K超高精細映像のライブ配信には大きな伝送帯域が必要です。HTBは複数回線による同期配信技術の確立をめざし行われた国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)主催の実証実験に参加し、伝送信号となる8K映像撮影と立体音響環境構築を担当。大通西8丁目会場から大阪に、迫力ある大雪像の映像を配信しました。

写真6 映像に高い臨場感を持たせる要素である音の配信にも取り組みました

みんなと、

「onちゃんおはなし隊」開催

2005年から行っている、HTBアナウンサーの活動です。毎月、地域の保育園や幼稚園、小学校、病院、高齢者施設などを訪れ、読み聞かせ活動を行い、言葉の魅力や朗読の楽しさを伝えています。マスコットキャラクター・onちゃんと一緒に「onちゃんおはようたいそう」も行い、地域の皆様と交流を深めています。

2016年度前期の開催月日

- 2016年5月9日 北海道大学病院ひまわり分校(高橋・福田)
- 2016年6月18日 札幌市立福住小学校(森)
- 2016年7月30日 札幌市中央図書館(森・五十幡)
- 2016年8月5日 札幌厚生病院(柳田・依田)
- 2016年9月9日 アートチャイルドケア琴似(大野・五十幡)
- 2016年9月14日 北菓楼札幌本館(森・柳田)
- 2016年9月22日 札幌ドーム(森・福田)

※()内は担当アナウンサー



福住小学校での1コマ。保護者の方々含め約200人が集まってくださいました。子どもたちからは後日お手紙も届きました

HTBが大切にしているCSRの一つが、次世代育成です。私たちは心躍る体験や、感動を生み出す「ひろば」



小学校高学年児童が対象。仕事の面白さ、厳しさを学ぶことは職業観の醸成にもつながっています



2016

4

Apr.

5

May

6

Jun.

7

Jul.

8

Aug.

9

Sep.

「先生あのお 詩集サイロの朗読会」開催

詩を通じて足元の日常生活を見つめ、自らの思いを表現する楽しさを知ってもらいたいとの願いを込め、十勝地方の小学校を中心に2002年から実施しています。2016年度は帯広市と札幌市で2回開催。どちらの回でも、子どもたちの素直な思いに触れることができました。



清川小学校では十勝の自然と生きる子どもたちの思いに触れました

開催月日と内容

- 2016年7月21日 帯広市立清川小学校 全校児童70人が参加
- 2017年2月15日 札幌市立豊平小学校 6年生52人が参加

豊平小学校では卒業を控えた6年生が学校生活の思い出や未来への希望を詩につづりました



科学へ興味を持つ機会づくりとして、夏休みと冬休みの時期に開催しました



「HTB-三菱電機 こどもサイエンス教室」開催

企業を挙げて理科教育を推進している三菱電機株式会社をパートナーに、2014年から開催しています。親子で行う理科実験では身近な家電製品に科学の知識がたくさん詰まっていることを実感。アナウンサーやディレクター業務にも挑戦してもらい、番組づくりの裏側にも触れてもらいました。この体験がエンジニアやテレビの仕事をめざすきっかけになればと願っています。

開催月日と内容

- 2016年7月27日、2017年1月5日・1月6日 全回共通テーマ「風」

地域の声

帯広市立清川小学校 五十川明美教諭

番組の上映会では、子どもたちが映像から想像を膨らませていました。アナウンサーの方による、地域の先輩や友達の作品の朗読では言葉の素晴らしさや地域の歴史を感じ、新たな感動が生まれました。



は、一年通して——

ユメミル



一年を通して、多くの子どもたちと直接触れ合う活動を行っています。
づくりで、子どもたちの未来を応援しています。



「とよひら子どもユメひろば」開催

2014年より行っている、職業体験を通じて次世代を育む活動です。札幌市豊平区と連携・協力のもと、「地域で子どもの未来を応援する」というコンセプトを共有する区内の企業やプロフェッショナルの方を講師に迎えて開催しています。2016年度は4回開催し、総勢45人の子どもたちが参加しました。



各回のテーマと講師

- 2016年7月26日 「酪農の仕事体験」講師:学校法人八紘学園 高林透さん ほか
 - 2016年11月3日 「切り絵デザイナーの仕事」講師:切り絵師 原義一さん
 - 2017年1月11日 「カメラマンとアナウンサーの仕事」講師:HTB 石田優行、林和人、石沢綾子
 - 2017年2月25日 「博物館学芸員の仕事体験」講師:札幌市博物館活動センター 古沢にさん
- ※講師所属は実施当日のもの



緊張しながらもきはきと自分の言葉でコメントする姿に、子どもの持つ可能性の大きさを感じました

「子どもコメンテーター」企画の実施



2016年12月末から2017年1月上旬の冬休み期間、『イチオン!モーニング』で小学4～6年生を対象に実施しました。6日間で計11人の子どもたちが生出演。放送後、子どもたちは目を輝かせ、「冬休みの自由研究にする」、「将来、アナウンサーになる」など、それぞれの思いを話してくれました。



「Hokkaido Great Santa Run in Sapporo 2016」に参加

2016年12月10日、4回目となる「Hokkaido Great Santa Run in Sapporo」が札幌市で行われました。病氣と闘う子どもたちとその家族の応援が目的のイベントです。HTBは1回目から、有志によるイベント参加を継続しており、2016年も札幌市内の病院にクリスマスプレゼントを届けるお手伝いをしました。



「onちゃんおはなし隊」開催

自らも読み聞かせ活動を行っているPTAの方から依頼を受け、本町小学校で4年生の授業として開催しました。HTBオリジナル紙芝居「onちゃんとバナナくん」の作成に使用した、バナナの皮を原料とする「バナナペーパー」を題材に環境問題も考えました。子どもたちからは、「おもしろかった」、「勉強にもなった」という声が上がりました。

2016年度後期の開催月日

- 2016年10月26日 札幌市立発寒小学校(森・大野)
 - 2016年11月15日 花川北陽幼稚園(林・大野)
 - 2016年12月7日 平岸友愛保育園(石沢・五十幡)
 - 2017年1月16日 大通学童保育コアラクラブ(森・HTBスタッフ)
 - ※スペシャルとしてHTB本社で開催
 - 2017年2月21日 こうさい保育園(林・大野)
 - 2017年3月22日 札幌市立本町小学校(森・高橋)
- ※()内は担当アナウンサー



映像を使い楽しく学べるよう工夫。バナナペーパーの折り紙もプレゼントしました

地域の声

札幌市立本町小学校PTA 巽佳子さん

読み聞かせを1人で始めて3年。「本物の読み聞かせを子どもたちに」との思いで申し込みました。絵本や紙芝居を2人で読む手法がとても面白かったです。onちゃんと体操ができて子どもたちは大満足。素敵な一日になりました。



希少な命に起きている現実にスポットを当てる テレメンタリー2016『野生のいのち 死の連鎖』

列車と衝突したエゾシカのれき死体を求め、絶滅危惧種のおオウシもまた列車と衝突し命を落とす……。線路脇で起こる「死の連鎖」を追った番組『野生のいのち 死の連鎖』は、全国のテレビ朝日系列局で放送され、道東で起こっている問題を全国に広く提起することができました。「映像で訴える」というテレビの力を意識しながら、これからも地域の課題をとらえる番組づくりにチャレンジしていきます。



貴重な野生動物の姿をとらえたことが評価され、2016年度科学放送高柳賞優秀賞と、第58回科学技術映像祭 自然・くらし部門文部科学大臣賞を受賞しました

緊急時だけでなく、復興まで寄り添う 2016年台風被害への対応

東日本大震災を機に、災害報道の役割は一層注目を集めるようになりました。HTBは正確な気象情報の提供など、平時における防災・減災報道に力を入れるほか、災害発生時には『イチオン!』や『イチオシ!モーニング』の生放送枠の活用、緊急特番の実施、テレビ朝日の全国ニュースやインターネットテレビ「AbemaTV」との連携などで、朝から深夜まで災害に関する情報を届けられる体制を整えています。

また、発生時だけでなく復興までを伝えることが地域に寄り添った災害報道であると考えています。2016年夏に北海道で甚大な台風被害が出た際は、大雨や交通機関の状況を逐次報道し、農産物や観光への影響を台風が過ぎ去った後も伝え続けました。



『イチオン!』の1シーン。台風被害の報道では、特産品のそばが被害を受けた新得町の復興への歩みも、数カ月わたって追いました

身近な環境問題を考える契機に 『とけてゆくスイス 氷河×光×地球の未来』

HTBは2012年より、地球温暖化防止キャンペーン「TOYAから明日へ」の一環として大型環境番組を制作してきました。2016年2月放送の『とけてゆくスイス 氷河×光×地球の未来』は氷河三部作の最終章として制作。氷河減少の実態と温暖化についての最先端研究を追いました。番組は映文連アワード2016優秀企画賞を受賞したほか、グリーンイメージ国際環境映像祭でグリーンイメージ賞を受賞しました。



撮影には4Kカメラとドローンを使用。迫力ある映像で、地球全体の課題といえる温暖化問題を克明に伝えました

MISS ～ 地域

映し出す使命。伝えていく責任。それらを果たす
2016年度も、環境問題や災害など身近な問題に

台風被害から立ち上がる力を 「大雨災害 onちゃん募金」開設

2016年夏の台風による、北海道各地の大雨被害を受け、「大雨災害onちゃん募金」を開設しました。主な金融機関に専用口座を設けたほか、HTB本社正面玄関と札幌市地下街ポールタウンにあるHTBコーナーに募金箱を設置。開設情報は『イチオン!』と『イチオシ!モーニング』で連日放送し、特設ホームページ「台風10号・災害関連情報」内やデータ放送でも募金を呼びかけました。2016年9月2日からの19日間で寄せられた1,475,833円の義援金は、10月4日に日本赤十字社北海道支部へ寄付しました。



伝え続けるケア・ジャーナリズム データ放送による情報の発信

災害のその後を伝え続けるために、データ放送を積極的に活用しています。東日本大震災については、現在に至るまで「東日本大震災関連情報」をデータ放送で配信し、朝日新聞社との連携で福島・宮城・岩手版の新聞紙面も掲載しています。2016年8月に発生した台風10号が引き起こした災害についても、データ放送を使い、HTBニュースや十勝毎日新聞などの情報をまとめた「台風10号・災害関連情報」の配信を現在も継続しています。

2016年11月には総務省実験の一環として、西興部村の防災訓練で、住民に避難を呼びかけるメッセージをテレビ画面に強制表示する試みを行いました。この取り組みと『医TV』でのハイブリッドキャストサービス活用(P15)が評価され、平成29年度情報通信月間北海道総合通信局長表彰を受けました。



いざという時の情報伝達の実証実験として、避難指示メッセージの強制表示を行いました



故郷を離れざるを得なかった方々のために、地域情報をデータ放送で届けています

記憶を共有し、防災・減災へつなげる 「今、私たちにできること ～3.11とともに歩む」

「今、私たちにできること」は、2012年からアナウンス部が行っている、北海道と東日本大震災の被災地・被災者をつなぐ支援活動です。2017年は3月11日に、「防災・減災」をテーマにNPO法人被災者支援ネットワーク、ほっかいどう防災教育協働ネットワークと連携して、札幌市駅前通地下歩行空間でチャリティーイベントを開催しました。熊本地震や北海道での大規模な大雨被害も記憶に新しい中、会場に訪れたおよそ2,500人と被災地復興応援の思いを共有しました。



ION と歩む

ことが、地域メディアとしての存在意義です。
目を向け、情報発信と問題提起を行ってきました。

土田英順さんチャリティーコンサート

震災直後から、道内外や被災地で340回を超える演奏活動を行い、支援を続けている元札幌交響楽団首席チェロ奏者・土田英順さんのコンサートを開催。土田さんが設立した「東日本大震災 じいたん子ども基金」への寄付も呼びかけ、169,780円が集まりました。



トークセッション

震災から6年。 被災地の今、そしてこれから

福島県から東川町に自主避難し、防災士の資格をとり、震災・防災語り部としても活動する鈴木哉美さん、熊本地震の取材にあたった熊本朝日放送の土屋孝博アナウンサー、北海道庁危機対策局の國田博之さんと、災害に直面した際の対処について語り合いました。各種防災用品や災害伝言サービスの使い方を紹介する避難所体験コーナーを開設し、非常食の試食会も行いました。



つなげよう、未来へ ～緑のメッセージ

2014年から札幌市内のフリースクール・札幌自由が丘学園の生徒の皆様がメッセージカードを手作りしてもらっています。2017年は防災・減災の誓いを込めた緑のメッセージの木を作り、メッセージを寄せていただいた皆様と防災への意識を高め合いました。



3.11とともに歩む

災害は決して他人事ではないとの思いを込め、HTBアナウンサーが震災関連の詩集と絵本を朗読。命の尊さについてメッセージを送りました。震災の発生した午後2時46分には集まった皆様と黙とうを捧げました。



ステークホルダーと共に



地域との約束

大切な、ステークホルダーとの対話の場 放送番組審議会の開催

地域の有識者で構成される放送番組審議会は、視聴者・生活者とHTBを結ぶ場です。番組制作や放送のあり方について広く審議いただき、提言は積極的に現場にフィードバックしてより良い番組づくりや放送活動に活かしています。

テレビ朝日系列では独自の取り組みとして、年に1度、全国の系列24局の放送番組審議会において統一のテーマで議論を行っています。2016年の統一テーマは、「テレビ朝日系列の報道について 思うこと・望むこと」でした。HTB放送番組審議会の平本健太委員長は、2016年10月に開催された全国代表者会議でHTBでの審議結果を報告し、将来に向けての提言を行いました。その一部を掲載します。



審議会は原則として男性・女性同数の有識者10人で構成。2016年10月からは9人で運営しており、30代1名、40代2名、50代4名、60代2名。平均年齢は50.7歳（2017年3月31日現在）

テレビ朝日系列の報道について 思うこと・望むこと

地域からの提言要約

- ◆報道に期待することは、公正、中立、客観性に尽きる。これは対立意見がある場合に無味乾燥に時間だけを合わせて放送することではない。ジャーナリズムの役割の一つは権力が適正に使われているか検証し伝えることである。
- ◆確実な客観的取材に基づいて、伝えるべきことは怯むことなく、しっかり伝えるという報道姿勢が強く望まれる。
- ◆安易な二分法は危険かつミスリーディングであり、メディアの見識を疑われかねない稚拙さははらんでいる。とりわけ重要な問題に関しては、高い見識にもとづく丁寧で慎重な取り扱いが望まれる。
- ◆本質とは思えない報道内容が目立つ。報道は感情に働きかけるべきではない。ファクトを厳格に示すことで視聴者の知性に働きかけ、視聴者の思考を促すべきである。

2016年度 審議対象番組

2016年

4月	北海道新幹線で行こう 東北・北海道大人旅
5月	TOYAから明日へ! とけてゆくスイス〜氷河×光×地球の未来
6月	テレメンタリー2016 ママの悲鳴〜少子化対策“逆行”制度
7月	第85回系列24社放送番組審議会委員代表者会議議題「テレビ朝日系列の報道について 思うこと・望むこと」
9月	HTBノンフィクション 選挙? マジか!〜18歳 初めて投票した夏
10月	テレメンタリー2016 野生のいのち 死の連鎖
11月	HTBノンフィクション「おはよう。いただきます。さようなら。」〜弁華別小最後の一年〜

2017年

1月	イチオシ!モーニング(土曜日)
2月	ハナタレナックスEX 世界遺産・知床をゆく チームナックス5人旅
3月	報道ステーション

情報を共有し、意識を高める

放送倫理&コンプライアンス研修の実施

「放送倫理委員会」、「コンプライアンス委員会」、「情報セキュリティ委員会」を設置し、それぞれのマネジメント体制と規定に基づいて定期的に社内外の事例を共有しています。さらに、放送倫理やコンプライアンス、内部通報制度について部署や階層に応じて必要な研修を行っています。

企業人としての基本に日々立ち返る

「約束と責任」を毎月掲示

地域メディアで働く者には、24時間365日、公人としての振る舞いと報道機関としての心構え、人の尊厳などについての責任ある行動が求められます。毎月テーマを決め、法令や社会規範順守の啓発文書を社内やイントラネットに掲示して公開し、日常的な意識づけを図っています。

視聴者、地域の皆様、社員とその家族。北海道で共に暮らすあらゆる仲間たちと、語り合い、考え、生まれた思いを行動に移していく。HTBのCSR活動は、そこから始まっています。

社員との誓い

「女性のチカラが生きるHTB」を社内外へ発信

ワークライフバランスとダイバーシティ経営の推進

HTBは、「視聴者の半分以上は女性。女性の共感を得られなければ番組は成り立たない」と考え、女性や生活者の視点を活かしたもののづくりのために2015年から女性の活躍推進を本格化させました。樋泉実社長自ら社内の意識改革、制度改革に積極的に取り組み、2016年3月に「女性の活躍応援自主宣言」を行いました。4月には「ワークライフバランス・ダイバーシティ推進部」を新設し、8月には「北海道なでしこ応援企業」の認定を受け、多様な価値観を受容する環境を整えることで新たな創造を生むダイバーシティ経営を進めています。

HTB全社での女性社員比率は約20%ですが、積極的に女性を採用し、20代の女性社員比率は2017年4月1日で45%となりました。その中にはHTB初の外国籍の社員も含まれます。「有給での育児時間」の対象年齢を「満3才未満まで」から



テレワークについて、2016年11月より4回にわたり総務省から専門家の派遣を受けました。1月には講師に総務省テレワークコンサルタント・田澤由利氏を迎え、社内セミナー「働き方は人生戦略」を開催

「小学校3年生終了まで」に拡大。制度整備と同時に、「“OTA GAISAMA（お互い様）”精神」を鍛える意識改革を進め、チーム力を上げ制度を活用しやすい空気づくりにも取り組んでいます。

こうした社内の取り組み事例は、札幌市の働き方改革さっぽろ大円卓会議、北海道ニュービジネス協議会などさまざまな場で紹介し、社外とのネットワークを築いています。

「多様性と受容力」時代のトップランナーへ

イクボス宣言

将来に向けた管理職のあるべき姿として、2016年10月、国内のテレビ局で初めて「イクボス企業同盟」に加盟し、「イクボス宣言」を行いました。イクボスとは、「共に働く部下やスタッフのワークライフバランスを考え、その人のキャリアと人生を応援しながら組織の業績の結果も出し、自らも仕事と私生活を楽しむ上司」のことです。特定非営利活動法人ファザリング・ジャパンが提唱しているもので、全国の自治体、企業が賛同し次々と加盟、宣言しています。HTBは宣言を機に毎月19日を「イクボスの日」とし、2017年1月19日には樋泉実社長がイクボス宣言を行いました。多様性が活きる組織をめざして意識改革、環境整備、働き方改革を進めています。

樋泉社長のイクボス宣言

●私は、長時間労働の環境を改め、すべての人のワークライフバランスを応援することで組織の成果を出し、自らも仕事と私生活を楽しむ「イクボス」になります。

●私は、チームHTBに「イクボス」を増やし、女性活躍をはじめとするダイバーシティ経営を実現します。「企業人」「家庭人」「地域人」として多面的に地域の課題や生活者に寄り添う広場を全力でつくります。



2017年2月19日には役員・局長が、3月19日には部長・副部長など全管理職が自らの言葉でイクボス宣言をしました

“自分らしく”働くことのできる環境をめざして

社員アンケートの実施

2016年度上期内部監査の一環として「コンプライアンスに関する施策」について、コンプライアンス責任者である部長と局長を対象にアンケート調査を行いました。コンプライアンスに関する部署の施策や想定されるリスクを洗い出し、共有することでハラスメント防止と、ダイバーシティを受容する力の醸成につなげ、誰もが働きやすい職場環境づくりを推進しています。

浅野 早也香
(スポーツ部)



札幌第一高校
職業講話「スポーツディレクターの仕事」講師 (2016年11月19日)

「興味のあることややりたいことを仕事にしてほしい」という願いを込めてお話ししました。高校野球の取材現場でしか接する機会なかった高校生と接し、これからも若者を応援する番組づくりをしていきたいとあらためて思いました。

地域の声

●札幌第一高校野球部監督 菊池雄人教諭
テレビ局の仕事にはアナウンサーなど表に出る方以外にも多くのスタッフが関わっていること、それぞれが責任を果たすことで強い組織になることを実感しました。



阿部 直美
(総務部)



北海道ニュービジネス協議会
「女性管理職の育成研修会」講師 (2016年12月16日)

北海道の企業で働く女性管理職の皆さんと、管理職のあるべき姿について一緒に考える機会を頂きました。年代や職場の異なる方々との会話を通して気づかされることも多く、自分を振り返るきっかけとなりました。

石沢 綾子
(アナウンス部)



北星学園大学経済学部
講座「メディアと社会」講師 (2016年6月10日) ほか1件

地域で暮らし地域を知る者だからできることを見つけ、テレビという媒体を通して伝える。「北海道発の朝番組司会」という立場から感じるこの仕事の醍醐味をあらためて口にすることで、初心を思い出し背筋が伸びました。

市本 絢子
(クロスメディア
コミュニケーション
センター)



立命館大学映像学部
ドラマ「UBASUTE」上映会・講演 (2016年6月2日)

上映会のトークセッションでは、現役大学生ならではの視点でのドラマ解釈から新たな気づきが得られ、視聴者との交流の大切さを感じました。業務についての熱心な質問もあり、自分自身の仕事を振り返る機会にもなりました。

増えていく、
小さな
「ひろば」

社員

HTBでは、普段は視聴者と出会うことのない部署のスタッフ
知見を社会に還元することは素晴らしい社会貢献であり、地域
社員一人一人が、得意分野で「ひろば」をつくっていく。その

海野 祐至
(総合制作部)



北星学園大学経済学部
講座「メディアと社会」講師 (2016年5月20日) ほか1件

ニュースの放送の仕組みやローカル局とキー局の役割の違い、特番やドラマの制作意義をお話ししました。「そこまで大変な思いをしてまでなぜ放送したいのですか」という質問に初心を思い返しました。この気持ちを大切にしたいと思いました。

及川 大地
(報道部)



北海道民放クラブ
時事講演会「激動の欧州 最前線レポート」講師
(2016年6月27日)

イスラム過激派によるテロや欧州の移民問題など、ロンドン支局3年間の取材裏話をお話しました。英国のEU離脱、トランプリスクに関する質問が相次ぎ、今後の国際情勢に対する関心の高さを実感しました。

金子 哲俊
(総務部)



厚生労働省
再就職応援事業「キャリアリターン応援制度」講師
(2016年5月25日) ほか1件

会社の採用担当者、就活中の子を持つ親、再就職を希望する女性……。企業と求職者、それぞれの立場の方々の、多くの悩みに向き合いました。今後も地域が抱える課題に寄り添い貢献していきたいと考えています。

北村 玲奈
(報道部)



超高齢社会の地域活性化を学際的に推進する会
Com.Fes2016「認知症とまちづくりについて」パネリスト
(2016年8月21日)

『イチオシ!』のシリーズ企画「老いるショック」の取材で出会った医療介護従事者の方と本イベントを企画しました。老後の暮らしへの不安と関心の高さを強く感じ、安心して暮らせる地域づくりのためにテレビが伝えるべき情報がまだまだあることを感じました。

地域の声

● 超高齢社会の地域活性化を学際的に推進する会
松永隆裕代表理事

一人一人の夢と希望は、縦割り・線形の活動ではなく、多様化した価値観に対応する横断的・複雑系の活動の中から生まれます。HTBには後者の観点からの活動を、応援する媒体であってほしいと願います。



岡 仁子
(CSR広報室)



札幌市男女共同参画センター 男性のためのエンパワーメント事業
「働き方改革さっぽろ★大円卓会議」ゲストスピーカー
(2016年11月5日)

共通の課題で緩やかにつながるエンパワーメントの場で交換したエールが、社内に、社会に働きかけていく原動力になると感じました。多くの人と、この体験を共有していきたいと思いました。

高橋 一之
(国際メディア事業部)



中国総合通信局 放送セミナー2016
「地方創生における放送映像メディアの戦略的活用」講師
(2016年5月20日)

5県で構成される中国地方は広域連携に大変積極的に取り組んでいます。道内も振興局を超えた広域連携の改善が必要です。中国地方と、空知や十勝などの連携の可能性を、各自治体と模索していきたいという思いを抱きました。

は語る

にも、外部の講演会やイベントへの協力を奨励しています。
のことを今以上に知る機会にもなると考えているからです。
積み重ねでHTBの地域との絆は一層強くなっていきます。

※社員の所属部署は実施当時のもの

増えていく、
小さな
「ひろば」

社員は語る

谷口 直樹
(アナウンス部)



札幌市男女共同参画センター
「メンズカフェさっぽろ ～定時退社(サヨナラ)の向こう側～」
ゲストスピーカー (2016年7月7日)

日常生活の中での「ちょっと大変だな」と思うことが「普通のこと」としてとらえられれば、「やらなきゃいけないこと」が「毎日の楽しみ」に変わってくる可能性もある。そんなことを考えながらお話をさせていただきました。

鶴羽 舞子
(編成部)



在札幌米国総領事館
「アメリカ領事と学ぶダイバーシティ」メンター (2016年12月11日)

高校生が主体のプログラムにメンターとして参加しました。世界を股にかける仕事を夢見て、すでに行動を起こしている高校生との出会いは刺激的でした。サポート役のはずがむしろ勉強になる一日に。一歩踏み出しチャレンジする気持ちを忘れずにいたいと思いました。

地域の声

●在札幌米国総領事館
レイチェル・ブルネット・チェン首席領事

性別、国籍、身体的特徴などにかかわらず多様性を受け入れる社会をつくるために、お互いがどう意識を変えていかなくてはならないか。私たちの大きなテーマです。今後も次世代のための話し合いの場を広げていきましょう。



戸島 龍太郎
(社会情報部)



北海道教育大学岩見沢校
「広告論」講師 (2016年10月31日)

短くてもインパクトのあるコピーのつくり方や、私たちが日々頭をひねってつくる新聞のテレビ欄の書き方を講義しました。およそ100人の学生にHTBのキャッチコピーを考えてもらいましたが、柔軟な発想でつくられた優秀なコピーにはびっくりしました。

林 和人
(アナウンス部)



札幌市立山鼻南小学校
総合学習「TVアナウンサーの仕事とは」講師 (2016年12月7日)

顔見知りの多い地元の小学6年生にお話ししました。朝2時起きという私の勤務内容に驚いたようです。原稿読みを体験してもらったのですがみんな上手でした。画面の向こう側と直にキャッチボールした、お互い得るものが大きい楽しい時間でした。

皆方 等
(報道部)

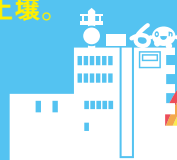


メディアアンビシャス
「子どもが多いほど保育料が値上がりした問題」講師
(2016年6月21日)

質問が相次ぎ、暮らしを支える行政に対する高い関心を痛感しました。日々の生活に対しての報道の役割とは何なのか？ 市民の率直な疑問を通じて、俯瞰でフラットな目線の重要性を再認識した、貴重な機会でした。

社員と、ユメミル

働きがいのあるいきいきとした組織は、良質で魅力ある、ものづくりの土壌。
職域を超えた対話や、世の動きへの感度を高める活動で、
組織の活性化を図っています。



いいな、プロジェクト

HTBで働くスタッフ間の連携を強め、対話を深めるための自律的な交流プロジェクトです。

2012年に「いいね、プロジェクト」としてスタートし、2015年からは現在の名称でプロジェクトを展開しています。

2016年度は、従来の活動に加え、交流スペースの設置や若手交流会の開催を新たに行いました。

「onちゃんテーブル」の設置

収納可能なミニテーブルと、掲示板として使える「ガラスボード」を社内の廊下の一角に設置しました。テーブルづくりから設置、壁紙の張り替えまですべてプロジェクトメンバーが実施。気軽に一息つける空間づくりが、社員交流の活発化にもつながればと期待しています。



設置場所は自動販売機の前。ドリンクを片手に立ち話できる和みの場です。スタジオ入り口にほど近く、アナウンサーの原稿下読みの場としても活用されています

「ユメミル、いいね賞」の表彰

「ユメミル、いいね賞」は、会社の表彰制度では対象外となってしまう社内の小さな「いいね」を探してみんなで感謝する機会です。グループ会社や契約社員も含め、HTBで働くすべての人が表彰対象となります。2016年度は3件が選ばれ、2017年1月4日の新年交礼会で表彰式が行われました。ファイナリスト4件、ノミネート7件の「いいね」もパネルで公開しました。



2016年度で実施は3回目となりました。仲間の小さな一歩を、みんなで喜ぶあたたかな企業風土の醸成が目的です

「いいな、話そう会」の開催

ゲストを囲んで語り合い、刺激を与え合い学び合う場「いいな、話そう会」を開催しました。主に20代の社員が参加し、同世代の起業家を囲んで、互いの仕事観、仲間のこと、地域との交流などについて語り合いました。



普段の業務の中だけでは知れない、多様な価値観を知る貴重な場になりました

社員による地域の清掃活動

雪解け後の時期に、地下鉄南北線南平岸駅からHTB本社までの通勤路を中心にゴミ拾いを行っています。夏の観光シーズンには、北海道コカ・コーラボトリング株式会社が推進している企業連携の清掃活動にも参加し、札幌市・大通公園でゴミ拾いを行いました。清掃活動を通じて、自分たちの暮らす「まち」に感謝を伝えています。



社屋周辺のごみ拾いは昼休みを利用して実施。2013年から継続しており、地域の方から「ありがとう」と声をかけられることもあります。ごみ拾いはさまざまな気づきを拾う機会にもなっています

HANA-LAND事業

HANA-LAND事業は、花を通じて人と地域がつながり、美しいまちづくりをめざす札幌市豊平区の事業です。2016年6月、出勤前の時間を使い、町内会の方々とHTB社員が協力して、HTB本社前の「りんご坂通り」に並ぶ植樹マスにペゴニアの花苗を植えました。花は夏の日差しを浴びすくすく成長し、色とりどりの花を咲かせました。



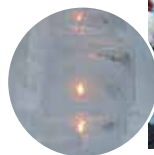
本社前の通りは通勤・通学路となっています。歩行者の方を思いながら、地域の方と心を込めて、一本一丁寧に植えました

まちの灯り

「まちの灯り」は、豊平区内の商店街が地域住民とともに作成した手作りのアイスクャンドルで冬のまちを暖かく照らし、市民の安心・安全を願うイベントです。2017年2月3日に札幌市立平岸小学校で行われた「アイスクャンドル点灯式」には、社員やHTBのマスコットキャラクター・onちゃんが参加し、大勢の児童や地域の方々と地域の冬のイベントを盛り上げました。



「まちの灯り」は札幌市商店街振興組合連合会が主催する「まちの灯り週間」に合わせて開催されています



2018年からの地図を描こう

「社屋移転プロジェクト」の取り組み

札幌に新しいチカラを生む拠点

「さっぽろ創世スクエア」に HTBは本社を移転します

HTBは、開局50周年となる2018年、現在再開発事業が行われている北1条西1丁目に建設される「さっぽろ創世スクエア」に本社を移転します。

「さっぽろ創世スクエア」は、HTBのほか、札幌文化芸術劇場、札幌市図書・情報館、札幌文化芸術交流センターの3施設から成る札幌市民交流プラザと、オフィススペース、公共駐車場などで構成されます。地上27階、地下4階、敷地面積11,675平方メートル、総床面積127,900平方メートルという札幌市では類を見ない大規模複合施設です。札幌市中心部

に新たな賑わいを生み出す交流拠点として、これからのまちづくりの起爆剤となることが期待されています。

2015年1月から始まった工事は2017年3月末時点で全体の約55%まで進捗しています。竣工は当初の予定通り、2018年3月末を予定しています。HTBの本社移転は2018年9月頃の予定ですが、竣工後、移転に先行してすみやかに放送設備の設置・試運転などを行うことになっています。

「日本一のひろばをつくる」地域メディアに

ふさわしい環境や働き方を考え 私たちのあり方を見つめ直しています

新社屋の設計思想は「日本一のひろばをつくる」です。その実現に向け、HTBは「社屋移転プロジェクト」を立ち上げました。未来を担う社員の意見や要望が確実に反映されるよう、20代、30代を中心とした社員によるワークショップなども実施し、部署横断メンバーで構成する事務局を中心に移転計画の検討や課題対処を行っています。

HTBが発信するコンテンツやイベントが、さまざまな触れ合いや出会いを生み、会社や地域の垣根を越えて広がってゆく。そうした、人と人とのつながりを生むエンジンとなることがHTBの目標です。北海道で暮らす皆様にとって今以上に身近な存在になるためには、どのような取り組みが必要か。質の高いものづくりを行っていくためには、どのような職場環境であるべきか。こうしたことを考えながら、ソフトとハードの両面で、HTBの未来を描いています。





大正大学表現学部教授
川喜田 尚 氏

中部日本放送（CBC）のニューヨーク支局長を経て、現在は大正大学教授のほかBS放送のJSPORTS番組審議会事務局長、日本大学芸術学部非常勤講師を務める。放送批評懇談会常務理事。

地上波テレビがデジタル化し、技術的コストは低減しました。それと引き換えに失いつつあるのが、局のアイデンティティーではないかと思います。ある地方大学で学生に好きな番組を聞いたところ、全国ネットの番組が次々と挙がりました。そこまでは想定内ですが、どこの局が放送しているか聞いたところ全員がキー局の名を答えました。「地元局は?」と聞き返すと、答えられた学生は一人もいませんでした。おそらく彼らはEPGまたはザッピングで番組選択をしているため、エンドロールで見る局名を覚えているのではないかと推測しました。アナログ時代にはありえなかった経験です。

HTBにその心配はいらないと確信しています。「地域メディア」の本質に真摯に向き合い、地域を巻き込み、地域の力を借りながら、地域の力をリフトアップするなど、地元愛にあふれた活動を長年継続されている姿勢に心から敬意を表します。

報告書としては、まずカラーユニバーサルデザインを採用するなど誰にでも読みやすくという配慮が細部にまで感じられました。地域や社員の声にも親近感を覚えます。欲を言えば、企業姿勢の後に年度ごとの概況や特徴、新しい取り組みなどが書かれていると、全体像の把握から具体的活動の理解への流れがスムーズになるかと思います。また研究者にとって引用しやすくなり、より一層、年次レポートの価値が高まると思います。



「札幌人図鑑」主宰
福津 京子 氏

コミュニティーFM放送局長を経て独立。札幌の魅力ある人々を1年365日動画で毎日配信する「札幌人図鑑」を主宰。公約の1,000人達成後、ジェイコム札幌で番組化され現在も更新中。

巻頭特集が「HTB北海道onデマンド」であることに意表を突かれました。コンテンツ数1,800本、会員は6万人超えとの数字に驚きつつ、ラインアップを拝見すると、北海道の価値や魅力を「いつでもどこでも」届けたい、視聴者に寄り添いたいという思いがひしひしと伝わってきました。テレビは「テレビの前の皆さんに」、ラジオは「ラジオの前のあなたに」語るというイメージが昔はありましたが、いまやテレビもパーソナルに楽しめるようになりました。

進化を続ける朝・夕の情報番組の充実ぶり、グライダーにぎゅうぎゅう詰めのおんちゃん活躍など楽しく読み進めましたが、今回のレポートで一番ハートをつかまれたのは「社員は語る」のページです。社会貢献と同時に地域のことを知る機会として、忙しい業務の中、講演される社員の皆さんが紹介されました。どの方もキラキラと自信を持って話されています。こんなにもたくさんのプロたちが、力を合わせて番組づくりをしているということにあらためて気づかされ、感動しました。学生が見たら、「こんな会社で働きたい!」と思うでしょう。「番組づくりはゴールではなく、地域活動のスタートライン」という冒頭の社長挨拶ともつながります。そして最後のページでは、新社屋完成予想図。市民の期待も高まっています。

各ページの「地域の声」では素朴な意見が聞けて良かったです。次号では「日本一のひろば」への「期待の声」も紹介していただきたいと思います。

上記のご意見は、今後の企業活動および次年度のレポートづくりに反映してまいります。

お手紙をいただきました。

昨年発行した「ユメミル、チカラ応援レポート2016」へ、感想をいただきました。一部抜粋の上、ご紹介いたします。

「子どもたちの職業観の醸成のために多大な貢献をされている点に大変好感が持てました。マスコミの仕事に興味がある子だけではなく、さまざまな番組を通じて幅広い層の子どもたちに仕事や家族のことを考えるきっかけを伝えているのが、HTBらしいと感じます。放送事業者として地域社会にどう貢献するか、そこを明確にし視聴者がそれを評価する。これを繰り返すことでテレビは本当の意味での社会インフラになっていくのだと思います」(札幌総合法律事務所事務局・石川典崇さん)。

私たちのCSR活動の重要なコンセプト、「子ども×地域×未来」について評価いただき大変うれしく感じると同時に、頂戴した「声」に地域メディアの存在意義を再認識しました。本レポートの発行は「地域との対話」の一つのかたちです。次号でも多くの皆様とコミュニケーションできることを願って、発行を続けてまいります。



会社概要



社名	北海道テレビ放送株式会社 Hokkaido Television Broadcasting Co., Ltd.
本社所在地	〒062-8501 札幌市豊平区平岸4条13丁目10番17号 TEL 011-821-4411 http://www.htb.co.jp
創立	1967(昭和42)年12月1日【放送開始 1968(昭和43)年11月3日】
資本金	7億5千万円
主な株主	(株)朝日新聞社、(株)テレビ朝日ホールディングス、 ノースパシフィック(株)、北海道建物(株)、東映(株)
従業員数	195名(男性154名、女性41名) ※2017年4月1日現在
系列	テレビ朝日系列

単位:百万円

区分	2014年度	2015年度	2016年度
営業収益	13,645	13,639	13,751
経常利益	1,062	844	923

関連会社	(株)エイチ・ティー・ビー・プロモーション、エイチ・ティー・ビー映像(株) (株)ディ・キャスト
支社	業務センター(札幌市中央区)、東京支社(東京都中央区)、 関西支社(大阪市北区)、旭川支社、函館支社、釧路支社、帯広支社
海外駐在員	ANNロンドン支局

編集後記



5月のある日、当社玄関ロビーに展示している『水曜どうでしょう』のフィギュアを囲んで楽し気な男女5人の若者に出会いました。「お友達同士で旅行ですか?」と声をかけると「いいえ、今ここで会ったばかりで〜す!」と女性がにこやかに言いました。間をあけず「ボクは千葉から」「大阪です」「神奈川〜」……。驚くことに皆さん一人旅で、偶然HTBで一緒になり、番組の話で盛り上がっていたのです。

これほど熱量の高い「場」に職場で遭遇できたことに感動し、感謝の気持ちでいっぱいになりました。コンテンツが紡ぐ「ひろば」と、それを支えてくれるファンの方々、取引先様、スタッフ。そこにHTBで働く一人一人が「Hello&Touch」し続けていくことの大切さを、あらためて感じた出来事でした。

写真は、ご訪問くださる皆さんをいつもお迎えしている屋上の「onちゃん」の横顔です。HTBは来年、札幌市中央区の新社屋に移転しますが、環境が変わっても私たちは変わらず、北海道を見つめ、北海道の「ユメミル、チカラ」であり続けてまいります。

最後まで読み進めていただき、ありがとうございました。皆様からのご意見・ご感想を心よりお待ちしております。



CSR広報室長 岡 仁子

編集チーム

山本 裕之(総務局総務部)
菊地 真章(編成局総合制作部)
松田 圭介(コンテンツ事業室)
松倉 英男(営業局国際メディア事業部)
岡田 壮弘(技術局技術部)
金子 哲俊(CSR広報室)
四宮 康雅(CSR広報室)
斎藤 龍(CSR広報室)

編集協力 (株)みんなのことば舎

表紙の撮影地 平岸高台公園(札幌市豊平区)

●ご意見・ご感想

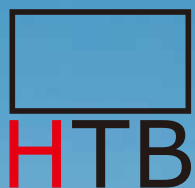
yume-report@htb.co.jp



色覚の個人差を問わずできるだけ多くの方が
見やすいように製品や情報を提供する考え方を「カラーユニバーサルデザイン(CUD)」といいます。このマークは、CUDO (Color Universal Design Organization)・北海道CUDOにより、CUDに配慮して作られていると認定された施設・製品に対して使用が許諾されています。



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



この冊子に対するお問い合わせ

北海道テレビ放送株式会社 CSR広報室

〒062-8501 札幌市豊平区平岸4条13丁目10番17号

TEL.011-821-4411 (代) FAX.011-816-4040 yume-report@htb.co.jp

2017年6月発行

●社名ロゴマークについて
シンプルな四角は16:9。デジタルテレビのフレームです。
この空白に、新しい価値をつくるHTBの先進性や可能性を表現しました。2006年度グッドデザイン賞を受賞。